



海峽日誌

七

七

へ遠13  
2475  
77





18  
2475  
77

徳金見聞志四編之七

徳金の軍機上之條乃支

去の程一大小の程多し軍乃

決定有まふ所より武系も泰内

まふし是程乃此人事中しく

いふ有がに先あるは

所も是乃は居為意切

茶磯棠





東海も玉具一ひんも...  
そくく...  
存...  
刻...  
一...  
人...  
務...  
七

早...  
是...  
左...  
と...  
右...  
三...  
三...  
三...



激帝子しんていこ 古法ふるほふ 不孝ふせう 少せう 城じやう 之の 進しん  
 毛利もうり 頼氏よりうぢ 駿河しゆんが 守まも 左ひだり 京きやう 以もつ 命いのち  
 在あ 彦ひこ 尉ゑい 掃はら 屋や 入い 在あ 法ほふ 友とも 在あ 彦ひこ 尉ゑい  
 小山こやま 新あらた 在あ 彦ひこ 尉ゑい 長なが 品しん 在あ 彦ひこ 尉ゑい 七しち 面めん  
 津つ 井い 五ご 面めん 范はん 履り 在あ 彦ひこ 尉ゑい 高たか  
 角かく 田でん 在あ 彦ひこ 尉ゑい 日にち 津つ 平へい 氏うぢ  
 父ちち 子こ 之の 人ひと 國くに 領りやう 之の 大だい 須す

笑わら 彦ひこ 尉ゑい 佐さ 野の 小こ 津つ 入い 道みち 日にち 七しち 面めん  
 八はち 面めん 是こゝ 之の 彦ひこ 尉ゑい 同どう 在あ 彦ひこ 尉ゑい 階かゐ 上かみ 彦ひこ  
 早はや 門かど 平へい 之の 彦ひこ 尉ゑい 丹に 史し 精しやう 後ご 本ほん 間ま 温おん 谷や  
 波な 多た 野の 野の 松まつ 多た 門かど 村むら 阪はん 田でん 大だい 肥ひ 土つち 在あ 彦ひこ 尉ゑい  
 織お 田でん 伊い 友とも 守まも 彦ひこ 尉ゑい 自みづか 津つ 守まも 之の 始はじめ 也なり  
 一いつ 之の 級けい 人ひと 之の 籍せき 命いのち 之の 始はじめ 也なり 佐さ 野の 金かね 尾び



東海道代押倉から東山道の大名  
おき武田の重少又子八人おき東濃少  
又子七人おき山内守尉孫坊小重少  
伊具右多允入の成始  
堀越合大石勝経外式部也  
知州、四万勝経と卒  
遊、奏、おき、徳倉、おき、大膳

大文廣元入道宗津又入道高尾  
宗文入道集人入道信徳成入道  
隠岐次重在重の尉是重成始  
重少、南重成おき、おき、古東大文重村  
おき、徳倉執権、おき、おき、おき  
重君成おき、おき、おき、徳倉  
おき、おき、おき、院宣の重成







んぞとて此中一六日毎日事起す  
帝一御陽門の道ありてありて  
公卿殿上人立出給ひしや推松  
返ししや美耐り首ハ能かありしや  
軍兵六人合戦始りしや美耐ハ澤余  
子母り澤余ト河方へ逃きしや  
沙汰ハ中紀ハありて終るふさるる下

いふくともる日能く推松後ご  
かきしや中紀ハありて終るふさるる下  
方より送り文と二浦駿河守美村  
披見しとて右東大寺美耐りんせ  
しとて徳りし中紀ハありて終るふさるる下  
中紀ハありて終るふさるる下  
何れも大少ありて終るふさるる下



東越成兵二萬が押入り  
其軍勢北九百勝騎にせしむ  
二百勝騎もいん徳々として  
まじりハ脱るも山も軍を充満  
押入せし米事は一用もあらず  
うんも事馳走うんと大息ついで  
事か又御屋之人皆く身とる

事物ゆもいん一洗を足と算  
一も武士も金一洒くも  
か首代新も若者一初定  
河も思ひわの大军は  
果もいん一

人炊乃渡一合我の事  
在古焼の古乃事



梅も一院を軍ある大軍  
責をふくし軍に色を  
中へいとも魚の  
ちりも金先字に  
事清金一と事評  
ひま一故つ  
む字に若多と  
む字に若多と

門少し九ツ乃  
概くもえ活がん  
文判友物言  
写く和如のもの  
をいふか橋  
常刀在事  
一千金  
向



乃波之ハ知口判友代海保を而  
一子應務之ハ事多向ハ一三由敷の  
海一ハ高及次市判友代并左衛門尉  
以一千應務と海くらハ人長途の波  
是之能事多秀康平九市判官  
流刻下徳の前目並徳也慶宗内  
左衛門尉日友左衛門尉是等と始一

坂合喜右衛門尉と向ハ一三由敷乃  
海一ハ高及次市判友代并左衛門尉  
左衛門尉日友左衛門尉是等と始一  
秀康平九市判官  
流刻下徳の前目並徳也慶宗内  
是之能事多秀康平九市判官  
乃波之ハ知口判友代海保を而  
一子應務之ハ事多向ハ一三由敷の  
海一ハ高及次市判友代并左衛門尉  
以一千應務と海くらハ人長途の波



其のうへに取く小分し事あるごとく  
ふに小瓶あり申く人軍に防ぐ事  
成りしやいふなり乃に謀事ありて  
先づつゝあつて軍法ありとんゆふま  
と危ふくそ思ひ事かぬ東海道  
乃先陳女御書内房と二月廿辰  
の刻屋敷の一本宮へ先陳し

軍乃に分つとちと東山道  
押合ふ人將氏田の事又子八人を  
如え小百修勝いづきも曾志  
武田在國分少外日を木死一生と  
きつえふから魚口たれど内口の軍  
ぶそけつと  
と武田の事しと事外河東と事



乃有つて士の軍に向ふかざりて  
合戦生ずる返かゆきと定むる  
六もその軍之乃吉日なりと  
用之成ちて捨る身因五  
少小笠原次郎 友人乃其院使  
三人来り一人乃君也と云ふ  
此後乃其事を始むる也

と云ふに肉侍向く向ひありて  
敵のつて道外一早く東方小  
あつて釣瓶成りても其  
下より小笠原次郎成田の  
方へ健成を以て其事成る  
斗へて其ふやいといふ  
切く捨給ふと云ふ事



男山崎の二使の内武人乃首と  
別々人と追放して東越へ返す  
事か武田の所が初め武田新右  
と以て名かよの所多結の志名を  
まも大炊乃海へ出遊かこし事  
又とと云海へくか島へく  
川へ入遊かこし川乃西

居きか名く高くも中へく馬ハ  
河川へくくく河七八段へ美  
とく海へ礼抗逆成及おへい志  
うまもる河の西河名か福が間  
美成とく海へ礼抗と後海へ  
ととく河の西河名か武田の所  
人へく海へ川海へ海へ



法法王乃恒人 勿集勿沙門上丸  
近多成うら入うに 東家乃玉華  
か〜乃燈之月毛多〜 乘冷電  
友の片持あから 去門場〜下ん  
中〜あふと 只今 乃成波とと  
河名を〜あゆと 産をう〜見と  
武田のあが 白〜屬せ〜 恒法園

乃恒人 勿集勿沙門上丸 近と名  
到ま〜あ成軍 並〜てい〜集し  
同園乃恒人 人妻と 勿集此と  
ふ者乃 千集と 勿集と 一門と  
川と度一 勿集と 人〜と 一門と  
兵と 射と 勿集と 人〜と 一門と  
深〜と 射と 勿集と 人〜と 一門と



事流き事か外業の事流ひく  
後と而之又夫成つぐひく馬の志  
後成射事かふる事成と倒き  
ふく門中く事流びく事流き力  
成接く逆成及乃く事流びく事  
と事百乃流く事成六人走り  
事流き物と射事か事流きと始き

事流き事か外業の事流ひく  
後と而之又夫成つぐひく馬の志  
後成射事かふる事成と倒き  
ふく門中く事流びく事流き力  
成接く逆成及乃く事流びく事  
と事百乃流く事成六人走り  
事流き物と射事か事流きと始き



東塔より西乃海がくく小矢と改  
川くがくも形塔小色多く塔  
ふく小矢東塔西百塔は列く  
押海か東塔門くくく向く  
致ふ吉女の大塔くくのせせ  
書る能乃くくく入く海く  
馬成地くくく賣くくは是くく

東塔より西乃海がくく小矢と改  
川くがくも形塔小色多く塔  
ふく小矢東塔西百塔は列く  
押海か東塔門くくく向く  
致ふ吉女の大塔くくのせせ  
書る能乃くくく入く海く  
馬成地くくく賣くくは是くく



討ててくうり筑後六面在真の尉虎渡  
おどろく乃澄く母衣掛く白月七の  
多く楽く居り事勿公武田お夢  
きむおー返とわさ成りゆきま好と  
返強くく六面在真の尉虎渡  
返くく何来難き事やあづはに  
清和焼く以えらるる力成援了川

返くおろすから作法を力も  
清和乃國の役人友あふ事敵次  
といふるか根成一流くめさ進て  
君清和つづく根成の清いおと  
らきく右力をさうきくし清和  
焼く名付給ひ云に成り人少如  
お如のともが清氣くさくせん







三人遊けあけあけいふ大井友と  
ふふしむ自に相成ハ武彦玉の  
恒人より軍東の四圍成らる事  
世々ありて終る金う終る事  
いふしむ事要方小大海終る事  
隆系河邊多持とんことまきり  
大井も成り返り思案とる事

併ちなる所成若も父子押並  
人々をなす終る事  
が押えり事難かき首成終る  
まふか此大井も成らる事  
成らぬことちめりつこと  
ちりしものり先年一洗り  
軍あく保をたす事



其ち向つて角力乃を名  
たつたものと登るもつて  
此方井と名つて中世  
りてそ敵光と名乗る  
西向して仕る家臣  
為代院とて下さき  
おとれ乃その中  
つて

中向つて運乃を  
中向つて運乃を  
の事此代軍  
乃海破  
少入



邦友激刺云々 口惜事  
一軍と法  
多らん 百勝強  
もせ申 能く馬秀康が  
大軍 前後 包き  
會 人 軒外 屋  
破き ち 引 あり 集流

乃 官軍 宇治 智多 成 あり  
一 院 乃 作 世 亦 是 八 集  
向 山 跡 ぞ 下 一 乃 亦 以 平  
九 而 判 友 也 力 及 及 生 亦 少  
推 一 字 治 え 向 山 亦 少

徳金見聞志四篇之七 終



